

【資料 2】

令和 7 年度 デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業の評価について

1 デジタル田園都市国家構想交付金とは

○デジタル田園都市国家構想の実現による地方の社会課題解決・魅力向上の取組を加速化・深化する観点から、「デジタル田園都市国家構想交付金」により各地方公共団体の意欲的な取組を国が支援するもの

2 事業の評価の必要性

○交付金事業では、重要業績評価指標 KPI を設定し、事業年度ごとに外部組織や議会等による多角的な効果検証を行うこととされている

3 交付金の種類

- 地方創生拠点整備タイプ（旧地方創生拠点整備交付金）※令和 5 年度補正予算分
 - ・地方自治体の総合戦略に位置付けられ、地域再生法の規定により認定された自主的・主体的な地域拠点づくり（ハード整備）などを支援し、地方創生の更なる深化を目的とした国の交付金
 - ・補助率：1／2

4 対象事業

- 息栖神社周辺拠点施設整備
 - ・評価期間：令和 7 年度から令和 11 年度まで ※供用開始年度から 5 か年分（交付金対象期間：令和 6 年度）

息栖神社周辺地域振興拠点施設（息栖にぎわいテラス） 事業概要

1 事業名	息栖神社周辺拠点施設整備
2 事業目的	市及び息栖神社周辺地域の文化、観光、産業等の魅力を発信し、にぎわいの創出を図る。
3 施設概要	施設名称：息栖神社周辺地域振興拠点施設（愛称：息栖にぎわいテラス） 供用開始：令和7年10月1日 構造：木造2階建 延床面積 709.2m² <フロア構成> 1階：地場産品物販施設（かみす市場）、情報発信スペース（かみすミュージアム）、カフェ（おしおいカフェ） 2階：常陸利根川の眺望を活かした飲食施設（ゆうひ食堂）、展望テラス 指定管理者：株式会社坂東太郎
4 施設の特徴	【歴史や景観との調和（外観）】 国指定重要文化財「山本家住宅」のせがれ造りを参考にした意匠を取り入れたほか、かつて存在した「柏屋旅館」の佇まいや、神社参道の風情と調和する和風の外観としている。 【五感で魅力を体感できる設計（内観）】 多機能な拠点としてゾーニングし、地場産品の買い物や歴史・文化の情報発信、食事や絶景の展望など、来訪者が五感で神栖市の魅力を体感できる設計としている。 【愛称公募】 愛称は一般公募により、806件の応募の中から「息栖にぎわいテラス」に決定。   
5 令和7年度の実績	施設利用者数：93,737人（レジ通過者数） ※令和7年10月1日～令和8年3月31日（約6ヶ月間）

令和7年度 デジタル田園都市国家構想交付金評価シート

交付金の事業名	交付金の種類	評価期間	単独・広域連携
息栖神社周辺拠点施設整備	デジタル田園都市国家構想交付金（拠点整備タイプ）	令和7年～令和11年	単独

事業目的	実績等	事業費（R8）
① 来訪者の滞在時間延長及び消費額増加による地域経済活性化	息栖にぎわいテラスの整備により、参拝後の滞在・休憩環境を提供するとともに、地元事業者へ出品機会を創出。	0
② 交流人口の拡大及び市の魅力認知度の向上	「かみすミュージアム」において、旧柏屋旅館のゆかりの品々や伝統工芸などを展示したほか、デジタルサイネージを用いて効果的な観光情報の発信に努めた。	事業費（～R7）
③ 地元食材の消費拡大及び知名度向上	地元農水産物の直売に加え、PR大使や地元水産会社等との連携によるコーヒーやパスタ、市の名産であるピーマン等を活用したオリジナルメニューの提供を展開した。	546,700千円

K P I		単位	事業開始前 （現時点）	2024年度 増加分	2025年度 増加分	2026年度 増加分	2027年度 増加分	2028年度 増加分	2029年度 増加分	KPI増加分 の累計
			目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
			達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率	達成率
①	地域における観光消費額 （息栖にぎわいテラス売上高）	千円/年	0	0	50,000	58,330	8,330	8,330	8,330	133,320
				0	90,692					
					181%					
②	息栖神社周辺滞在時間 （人流データ調査による滞在時間）	分	30	0	10	10	10	10	10	50
				0	7.3					
					73%					
③	周遊促進効果 （観光資源やイベント等の入込客数）	人/年	305,000	0	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	75,000
				0	36,379					
					243%					
④	拠点施設の来訪者数 （息栖にぎわいテラスの入込客数）	人/年	0	0	104,000	9,500	9,500	9,500	9,500	142,000
				0	93,737					
					90%					

事業の効果
相当程度効果があった
①施設内の物販・飲食エリア等において、地元食材の活用や地場製品の出品を促進したことで、地域における観光消費額の拡大と地元生産者の経済活性化に大きく寄与した。
②参拝後の休憩・滞在環境が不足していた息栖神社周辺において「息栖にぎわいテラス」の整備により快適な休憩・回遊空間が確保され、滞在時間の延長に繋がった。
③「かみすミュージアム」を起点とした情報発信により、来訪者の本市に対する認知度向上を図るとともに、効果的な観光アプローチを行うことで市内他スポットへの周遊を促す契機を創出した。
④東国三社参りにおいて通過点になりがちであった息栖神社周辺に、新たに人が集まる「目的地」としての誘客拠点を創出し、交流人口の拡大に寄与した。

今後の方針
事業の継続
①指定管理者と緊密に連携し、神栖市産食材を用いた新たなメニュー開発や本市のお土産品開発に向けた機運醸成を図るとともに、地元事業者からの新規出品開拓を継続的に進め、さらなる観光消費額の向上を目指す。
②居心地の良い快適な空間を維持するため、指定管理者のノウハウを活かした適切な維持管理を徹底するとともに、丁寧な接客・サービス向上により、さらなる滞在時間の延長と満足度の向上を図る。
③「かみすミュージアム」の展示更新により、地域の歴史や文化への理解・認知をさらに深めるとともに、人流データ分析から得られた来訪者の動向に合わせてタイムリーな観光情報発信を行うことで、さらなる市内周遊の促進につなげていく。
④令和8年度に完成した船だまり周辺広場と一体となったPRや、東国水郷観光推進協議会等との広域連携を強化し、さらなる交流人口の拡大を図る。

【凡例】

事業 の 効 果	非常に効果的であった	全てのKPI が目標を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
	相当程度効果があった	一部のKPI が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
	効果があった	KPIの達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
	効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組として前進・改善したとは言い難いような場合
	効果の有無はまだわからない	効果発現時期がまだ到来していない

今 後 の 方 針	追加等、更に発展させる	事業が効果的であったことから、取組の追加等、更に発展させる場合
	事業の見直し（改善）	事業の見直し（改善）を行う場合
	事業の継続	特に見直しをせず、事業を継続する場合
	事業の中止	継続的な事業実施を予定していたが中止した場合
	事業の終了	当初の予定どおり事業を終了した場合

本事業におけるKPI（重要業績評価指標）の設定根拠

本事業では、にぎわいの創出や魅力発信といった事業目的の達成度を客観的に評価するため、以下の4つの視点（観光消費、滞在、周遊、集客）から、定量的・多角的に効果を測定するKPIを設定しています。

KPI項目・指標	設定の目的及び選定理由
① 地域における観光消費額 （計測する値：息栖にぎわいテラス売上高）	本事業が地域全体にもたらす経済波及効果を計測するとともに、拠点施設自体に「自立した稼ぐ力」が備わっているかを分析するため、地元の産品を中心に扱う本施設における売上高を計測します。
② 息栖神社周辺滞在時間 （計測する値：人流データ調査による滞在時間）	鹿島神宮や香取神宮に比べて滞在時間が短いという周辺地域の課題に対し、本事業の整備による滞在時間の変化を検証するため、モバイルGPS等の人流ビッグデータを活用して来訪客の滞在時間を計測します。
③ 周遊促進効果 （計測する値：観光資源やイベント等の入込客数）	本施設が情報発信基地として機能し、市内の他の観光資源へ誘客できているか（周遊促進効果）を検証するため、市内の主要観光スポットやイベント等の観光入込客数を計測します。
④ 拠点施設の来訪者数 （計測する値：息栖にぎわいテラスの入込客数）	本事業の整備による周辺エリアの魅力向上や、にぎわい・交流人口の拡大状況を検証するため、本施設に訪れた年間入込客数を計測します。